

科目名	担当教員名	授業形態	単位数	資格	大学 DP	学科 DP	学習成果
社会福祉援助技術現場実習指導Ⅱ	田中 武士	演習	3	社会福祉士 (SS)	1, 2, 3, 4	1, 2, 4	1, 2, 3, 4
授業概要 授業目的	社会福祉援助技術現場実習Ⅰでの経験と関連させながら、社会福祉援助技術現場実習Ⅱに即して自身の知識と考えを深められるよう指導します。また、社会福祉施設の機能と課題に対する認識をより具体的に把握し、個人・実習記録の作成などについて学びます。さらに、福祉専門職としての感性、自己覚知、記録、利用者との援助関係の築き方などについてスーパービジョンを受け、より質の高い実習としていくことを目的としています。						
到達目標	①1年次の実習経験から成果と課題を認識することができる。 ②実習における福祉専門職としての自覚と責任、人権意識、職業倫理などを意識することができる。 ③スーパービジョンを通じて実習における成果と課題を認識することができる。						
回	学習内容						
1	オリエンテーション（授業内容の予定と評価の方法）						
2	実習プログラムや実習課題の達成についての検討						
3	実習報告書の作成						
4	実習体験の共有化（グループ討議）						
5	実習体験の共有化（グループ討議および発表）						
6	実習先の業務や組織に関する法的根拠の理解						
7	実習に向けての準備（対人関係と社会人としてのマナー）						
8	実習施設の種類と概要						
9	実習施設の現状と課題						
10	実習生個人票の作成						
11	実習計画書の作成（個人の問題意識のアウトプット）						
12	実習計画書の作成（社会的意義を意識する）						
13	実習計画書の作成（実習目標との整合性を図る）						
14	スーパービジョンの方法と場面を理解する						
15	スーパービジョンの意義を理解する。						
予習内容 復習内容	予習：授業計画を参考に、日頃から新聞記事等に目を通し社会の状況に触れておく。 復習：授業を通じて生まれた自らの気づきや問いについて、文献等を用いて深めるよう努める。						
教科書	・指定のテキストは使用しません。適宜レジュメと資料を配布します。 ・参考文献：授業中に紹介します。						
成績評価	出席時におけるレポート（50%）、実習報告の準備内容と結果（50%）を総合的に評価します。						
実務経験	医療機関や在宅介護支援センターなどでソーシャルワーカー（社会福祉士、精神保健福祉士、介護支援専門員）として20年以上の勤務経験あり。						
その他 特記事項	実習がより質の高い内容となるよう、積極的な姿勢で取り組むことを求めます。						